

議会報告会・意見交換会記録

- 1 日 時 令和5年4月20日(木) 午後7時00分 開会
- 2 場 所 姫川原コミュニティセンター
- 3 出席議員 6名
- | | | | |
|-----------|---------|----------|---------|
| 副 議 長 | 高 田 保 則 | 厚生文教副委員長 | 太 田 紀己代 |
| 総 務 委 員 長 | 岩 崎 芳 昭 | 厚生文教委員 | 霜 鳥 榮 之 |
| 総 務 委 員 | 渡 部 道 宏 | 産業経済副委員長 | 横 尾 祐 子 |
- 4 市民出席者 11名
- 5 事務局員 2名
- | | | | |
|-----|---------|-----|---------|
| 局 長 | 阿 部 光 洋 | 主 査 | 渡 辺 希 望 |
|-----|---------|-----|---------|
- 6 件 名
- 議会報告会・意見交換会
- 1) 開会
 - 2) あいさつ 議会報告
 - 3) 意見交換 「地域コミュニティと子育てについて」「公共交通について」
 - 4) 閉会あいさつ
 - 5) 閉会

1. 開 会

- 司会（渡部道宏） それでは定刻となりましたので、皆さん、本日は大変お忙しい中、農作業、お仕事の後、お集まりいただきまして、ありがとうございます。妙高市議会では平成27年3月に制定されました、議会基本条例に基づきまして、開かれた議会を推進する取り組みの一つといたしまして、議会報告会、意見交換会を開催いたしております。今年は18日、妙高高原地域、昨日、妙高地域、そして本日新井地域の3日間、開催しております。そして、本日は、妙高市議会議員のうち、本日の担当議員5名で進めさせていただきます。それではまず最初に、今回のこの企画を主催しております広報広聴委員長よりご挨拶、自己紹介をお願いいたします。
- 高田広報広聴委員長（高田保則） 皆さんこんばんは。今回説明しております、広報広聴委員会の委員長をやっています。ありがとうございます。今日司会のほうから話がありましたが、3地区の最終日でございます。ぜひ活発なご意見を願います。よろしく願います。
- 司会（渡部道宏） 続きまして、担当議員5名の自己紹介をさせていただきます。それでは、岩崎委員お願いいたします。
- 岩崎議員（岩崎芳昭） 皆さんこんばんは。総務委員会に所属しております、岩崎と申します。よろしく願います。
- 司会（渡部道宏） 続きまして、太田議員、お願いいたします。
- 太田議員（太田紀己代） こんばんは。私は、厚生文教委員会に所属しております、太田と申します。よろしく願

いたします。

○司会（渡部道宏） 次に、横尾議員お願いいたします。

○横尾議員（横尾祐子） 皆さんこんばんは。産業経済委員会の副委員長をさせていただいております、横尾祐子と申します。よろしくお願いいたします。

○司会（渡部道宏） 続きまして、霜鳥議員、お願いいたします。

○霜鳥議員（霜鳥榮之） はい。皆さんこんばんは。厚生文教委員の委員をやっております、霜鳥でございます。何でここにいるかといいますと、今日は座布団運びならぬ、マイク運びでもって、いますので、必要に応じてしゃべらせていただきますので、よろしくお願いいたします。

○司会（渡部道宏） それでは、最後に私、司会を務めさせていただきます、渡部でございます。本日はよろしくお願いいたします。それではまず最初にですが、2点お願いがございます。まず1点目。この議会報告会・意見交換会につきましては、後日、会議録の作成を予定いたしております。参加者の皆さんが今日ご発言いただきました個人名は公開されませんが、質疑や意見交換における皆さんや議員の発言につきましては、会議録としてホームページにて公開させていただきますので、ご承知おきください。ですので、質疑や意見交換で発言される場合には、皆さまにお住まいの地域とお名前から発言いただきますようお願いいたします。

本日は8時30分の終了目途といたしておりますが、この会議が終わりましたら、アンケートにご協力をお願いいたしますよう、重ねてお願いいたします。

それではただいまから議会報告会、意見交換会を開会いたします。お手元に配付させていただきましたレジメに沿って進めさせていただきます。

2. あいさつ 議会報告

○司会（渡部道宏） 初めに高田広報広聴委員長よりご挨拶と並びに議会報告の方、よろしくお願いいたします。

○高田広報広聴委員長（高田保則） 改めまして、こんばんは。広報広聴委員長の高田でございます。

今日は本当にお集まりいただきましてありがとうございます。本日は大変お忙しい中、多数の皆さんに、議会報告会・意見交換会にご出席いただきまして、大変ありがとうございます。

日頃より本市議会の活動に対し、ご理解とご協力をいただき、心より御礼申し上げます。

私から本日の開催の議会報告会・意見交換会の趣旨と目的をご説明させていただきます。

まずは、市民の皆さんに議会の取り組みを知っていただくとともに、市民の皆様との情報共有・意見交換会の機会を設けております。いただいたご意見を市長並びに執行機関に、お伝えすることだけでなく、議会の活動にもつなげて参る所存でございます。皆さんの負託にこたえるべく、安全・安心な妙高市づくりに邁進をして参りたいと思います。まちづくりの政策決定過程の市民参加が、これからは重要になってくると思っております。最良の妙高市に導くため、皆さまのご意見を議会としての政策提言に役立てていく所存であります。ぜひ皆さんのご忌憚のないご意見をお願いをいたします。

それでは、3月定例会で審議しました令和5年度一般会計予算について、簡単に説明をさせていただきます。

市民一人一人が幸せを実感できる妙高市へと発展させるためにSDGsを推進しながら、第三次妙高市総合計画に掲げる重点プロジェクト・戦略目標のほか、令和5年度行政経営方針を踏まえ、未来を担う子供や若者の育成を推進し、社会環境の様々な変化に対応した魅力ある溢れるまちづくりを進めていく必要があります。

常に市報妙高でご存知の通り、一般会計の当初予算は、218億4000万円。前年比8%の増です。予算額では16億2000万円の増となります。妙高市となってから4番目の規模の予算額になっております。

歳入についてですが、市税が約全体予算の21.9%、地方交付税が30.2%を占めています。前年度予算との比較では、市税は個人市民税や法人市民税の増加などにより、7.5%の増。地方交付税は国税の増収見込みにより、2.2%の増。市債ですが、借金ですが、公共施設の整備など、普通建設事業に対する発行額が増加することから、3.3%の増額を見込んでおります。

また、繰入金は、市の貯金に当たる財政調整基金から6億1000万を繰り入れることから、16.8%の増となっております。

一方、歳出では、子育て、保育、高齢者福祉など、民生費の予算が最も多く、全体の22.2%を占め、続いて、土木費、教育費の順となっております。

具体的には新図書館等複合施設の建設への着手、小中学生の給食費の完全無償化、橋梁、橋ですね。橋の長寿命化や、朝日町住宅の大規模改修工事の他、省エネ性機能住宅の取得に対する支援の拡充など、実現するための予算として編成されました。

また、議会の取り組みとしては、妙高議会初となる議員提案による政策政策的な条例となります、仮称でございますが、文化芸術基本条例の制定を進めております。令和5年この6月の定例会で議決を予定しております。すでに皆さまご存知のとおり、現在、パブリックコメントを実施しておりますので、こちらにつきましても、ぜひ忌憚のないご意見をお願いさせていただきたいと思っております。

簡単ですが、以上で挨拶並びに議会報告とさせていただきます。

最後に、妙高市議会の取り組みをご紹介した動画を初めて作成しましたので、ぜひご覧いただきたいと思っております。

この議会報告会意見交換会は、皆さまがたの前向きな意見、アイデア等を聞かせていただき、これからの妙高市の発展につなげて参りますので、よろしくお願いたします。

【紹介の動画開始】

今日は皆さんから、市議会と市議会議員について、知ってもらいたく、ご紹介させていただきます。この動画で、市議会、市議会議員に対して、興味を持っていただけたら嬉しいです。それではご視聴ください。まずはじめのテーマは、市議会って何です。そもそも市議会とは、日本国憲法第92条において、議会に関する組織や権限、委員会、会議など、それぞれの内容が定められています。簡単に表現すると、自分たちが住んでいるまちをより住みよいまちにするためには、市民全員が集まり、話し合い、考え、決めていくことが大切です。ただし、市民全員が集うのは困難なため、市民の代表を選び、その代表で組織されるのが市議会と言い、市民の代表を市議会議員と言います。市議会の主な仕事としては、1つ目に議決、2つ目に選挙・同意、3つ目に検査・調査・監査、最後に意見書の提出の4つが挙げられます。それぞれの内容は、つぎのとおりです。1 議決。予算や条例などの決定、決算の認定、重要な契約や財産の取得・処分などの決定などをおこなうことです。なお、議会の議決がなされて、はじめて市の事業を執行することができます。2 選挙・同意。市議会の議長や副議長の選挙をおこなうことと、市長が選任する副市長や教育長、その他、各種委員などの人事に対する同意を行うことです。3 検査・調査・監査。市の事務や事業が適正におこなわれているか、適正に管理されているかを検査や調査し、関係者から意見の聞き取り、記録等の請求を行うことです。いわゆる市のチェック機能を併せ持っています。4 意見書の提出。市の公益に関することや生活にかかわりの深い事柄について、国会や国・県などの関係行政機関に対して、意見書を提出することです。

次に 市議会って必要なの。そんな疑問にお答えします。地方自治の基本原則のなかに、①住民自らが地域のことを考え、自らの手で治めること。②地域のことは地方公共団体、市が自主性・自立性をもって、国の干渉を受けることなく、自らの判断と責任のもとに、地域の実情に沿った行政をおこなっていくことの2つがあります。この

ことから、市議会は、みなさんの意思を決定する機関として設置し、市民にかわってみなさんの要望や意見を、市の行政に反映させていくものとして必要なのです。

次に、市民と市議会と市長の、それぞれの関係・役割はどうか見ていきましょう。市議会は、市民から選挙で選ばれた議員を代表として、意見・要望・相談などを伝えます。議員は直接市民からの聞き取りのほか、報告会や意見交換会の場を開き、そこで情報の収集を行います。その後、市民からの声をまとめ、市政に反映させるため、市への提案をはじめ、予算や条例などの決定を行います。市議会の具体的活動としては、年4回、3月、6月、9月、12月に定期的にかれる定例会と、必要に応じて開かれる臨時会があります。あらかじめ開催期間を定め、その期間中に本会議や委員会を開き、市から提案された予算や条例などの審査を行うとともに、市への提案などを行います。本会議とは、議員全員で構成される会議のことで、市から提案された予算や条例などの賛否を決定します。開催には、議員定数の半数以上の出席が必要となり、賛否の決定には出席議員の過半数が必要となります。本会議とは別に委員会というものもあります。委員会には、①常任委員会、②特別委員会、③議会運営委員会の3つあり、それぞれ取り組む内容が異なります。まず、常任委員会とは、各所管事項、市役所の中にある業務担当別に審査・調査をする委員会のことです。妙高市は、総務委員会、厚生文教委員会、産業経済委員会の3つの委員会に分かれています。議員は、必ずいずれかの委員会に所属します。2つ目に特別委員会というものがあります。特別委員会とは、特定の問題を審査するために設置される委員会のことで、議会の議決で一定期間、設置することができます。3つ目は議会運営委員会です。議会の運営を円滑、能率的に行うために設置している委員会です。

市議会において、忘れてはいけないものとして、議会基本条例があります。議会基本条例とは、妙高市自治基本条例の理念を受け、将来あるべき妙高市議会の姿を明らかにし、議会の最高規範として制定したものです。

続いて市議会議員にテーマを移したいと思います。市議会議員は、今まで以上に住みやすいまち、市民全体の幸せに向かって、市民の願いや意見がかなえられるように市議会を通して活動しています。全国各自治体がおこなっている先進的な政策などについて調査、研究し、それを市政に役立てるため、各委員会等で行政視察を行うほか、政務活動に伴う会派視察をおこなっています。議員には一般的な休暇制度はありません。会議や市の行事に出席するほか、市民の声を聞くことも大切な仕事です。議会以外での政務活動もあり、公務、私的活動の区分がつきにくいことから、24時間休みなしとも言われています。この市議会議員をどうやって決めているかということ、市民からの選挙により選ばれます。なお、議員に立候補できるのは25歳以上の市民で、任期は4年間となっています。2023年4月現在の議員の報酬は、月額28万6900円で6月と12月には期末手当があります。そのほか、政務活動費として、1人につき最大で年間18万円の交付を受けることができます。

ここからは、妙高市議会が取り組んでいる様々な活動を紹介します。妙高市議会では、開かれた議会・寄り添う議会を目指し、次のような活動にも取り組んでいます。広報活動の一環で、妙高市議会、専用の広報誌として、市議会だよりを年4回発行し、全戸配布しています。そのほか、議会での様子を、YouTubeによるライブ中継や、録画配信もおこなっています。次に議会報告会・意見交換会の開催です。これは、市民の皆さんへ、議会の活動状況や、市の動きなどを報告するとともに、地元地域の意見や、要望などの聞き取りをおこなっています。外部団体との意見交換会。市内の外郭団体とも意見交換会をおこなっています。タブレット端末の導入。2022年8月から、全議員へタブレット端末の貸与を開始しました。現在は、紙とタブレットを併用する移行期間中であり、2023年6月定例会から完全移行を予定しています。議場でコンサートを開催。新井小学校と、新井中学校の合唱部によるコンサートを開催しました。議場の中は声も響きやすく、綺麗な歌声が議場内に響き渡りました。こども議会の開催。小学校等の児童や、中学校、高校の生徒を対象にした模擬議会をおこないます。本会議場を利用して、子どもたちが本格的に議会を行うことで、議会・行政の意義や、仕組みを理解してもらえるように取り組みます。出前講座の

実施。選挙権年齢が、18歳以上に引き下げられたことから、未来を担う若者が議会活動の理解を深めてもらえるよう出前講座をおこないます。

以上でこの動画は終了となります。それでは、皆さん、次回は議場でお会いできることを願い、楽しみにお待ちしております。ご視聴ありがとうございました。

【動画の視聴終了】

○司会（渡部道宏） ありがとうございます。

それでは次に意見交換会交換に移らせていただきたいと思います。

今回は活発な意見交換となるため、テーマを設けさせていただきました。

1番目として、地域コミュニティと子育てについて、2番目として、公共交通についてとなります。

そのテーマ以外のことについて日頃皆様が思っていることやご意見など、お伺いできればと思っております。

3. 意見交換「地域コミュニティと子育てについて」

○司会（渡部道宏） それではまず1番目のテーマ、地域コミュニティと子育てについて意見交換させていただきたいと思います。どなたか意見のおありの方、挙手をよろしくお願いたします。どうぞ。

○市民男性A 皆さんこんばんは。わたくしこちらの〇〇って言いますが、妙高高原から来ました。ほんで皆さんYouTube見ていると思いますけどもここ5、6年、私8年間、議会の傍聴をいしてますがちょっと顔が小さいからわからないと思いますけどもね。一応行った機会が、立ち会い人やってだんだん、投票率が下がってきて、それで議会行ったんですけどもね。そして国会議員みたいに、眠っている市議会議員がいない監視していたんですが一応今のところ、この8年間眠っている議員はいませんが、ちょっと、私用で何かやっている人もいたみたいです。これは、これからちょっと佐藤議長にですね、ちょっと注意してもらおうような話になっています。ちょっと私どももね、今年の9月で私も72になりますので、14年の10月の市長選挙から地区の立ち会い人を17回、一応っていうかね7月の議員までで17回やってます。ただしこれもですね、地域のコミュニティと一緒に、なり手がないんですよ、地区の役員と一緒に。これも誰かがやらなきゃいけないってことで、やってますけども、それか、お前がやるから誰もやらないんだっていう人もいますが、これも皆さんで考えていただきたいと思います。以上です。

○司会（渡部道宏） はい。ありがとうございました。今ほど貴重なご意見賜りました。地域コミュニティを形成していくためにも、やはりこの議員、いろいろ考えていただかなければいけないことがあるというようなご意見を賜っております。

そのほか皆様がたの方で何かこれについて、他に何か、地域コミュニティについてと子育てについてでございます。女性の皆さまがたの方で何か。これはおかしかったじゃないのか、これはこうした方がいいんじゃないかというご意見があれば、今言っていただければ、反映できるものは極力頑張っていきたいということになっておりますので、どうぞ遠慮なさらずに、見た限りの人数でございます。名前は決して公表されません。意見だけでございます公表されるのは、ですので、忌憚のない意見をちょうだいできれば、今後の子どもたち・コミュニティのために役に立つということになりますので、是非ともご意見をちょうだいできればと思います。

どうぞ。

○市民女性A 皆さんこんばんは。後ろからすいません。私姫川原の住民で、横浜からこっちに移住してきたっていうか、あれなんですけれども。

○司会（渡部道宏） お名前もちょうだいしていいですか、お名前を。

○市民女性A ○○と申します。

○司会（渡部道宏） ありがとうございます。

○市民女性A すいません。すごく感じたことをちょっと言わせていただきたいんですが、私が横浜にいるときは、こちらのね、環境で子供が育つっていうのはすごくいいなっていう感じを持ってたんですが、こちらに来てから子供たちの遊ぶ様子とか、学校での子供たちの遊びに対するルールとか、そういうのをずっと伺っていると、都会よりも子供たちに規制が、ありすぎちゃって、何て言うんですかね、自由に遊べない。私も小学校とかで支援員をやってるんですけど、子供たちの遊びが、追いかけてこぐらいしかなないんですよ。遊びの種類がすごく少ない。レパトリーが少ない。で、公園にも、遊具がほとんど今ない状態ですよ。で、子供たちの筋力が、かなり落ちてるよううかがえるんですね。それっていうのも、昔は鉄棒で私もね、経験あるんですけど、子供のころは鉄棒とか雲梯とかで遊んで、手の握力とかがかなりついてたんだけど今そういう遊びをしないので、子供たちの筋力っていうのがなくなっているんですよ。走ったりとかする持久力っていうのは養われてるんですけども、筋力が、それに劣ってるかなっていうのがすごく感じて、それを何とかしないとイケないんじゃないかなっていうふうには私は日頃感じております。それっていうのも、子供たちの外で遊ぶ環境っていうのが、そんなふうになっちゃってるんじゃないかなって思うので、その辺をもうちょっと考えた方がいいんじゃないかなっていうふうには日頃感じております。はい。以上です。

○司会（渡部道宏） はい。ありがとうございました。太田議員。はい。よろしいでしょうか。今の質問・意見に対して。

○太田議員（太田紀己代） 今程はどうも、ありがとうございます。本当に私自身も、お子さんが外で遊んでいない、すみません。お子さんがですね、あんまり外で遊んでいない状況は私も常々感じております。私自身は厚生文教委員会に所属してまして、子育てといった部分でも、或いは学校教育、そういったところで関わらせていただいておりますが、なかなかその遊具とか、そういったことに関するお話。或いは体力関係のお話ってのは、なかなか私自身もしてきていなかったなと反省しております。今、ご意見をいただきましたので、またそれを深めていきたい、そのように思います。ありがとうございます。

○司会（渡部道宏） ○○さん、今の回答で、納得していただきましたか。よろしいでしょうか。あと、他にございますでしょうか。何でも結構でございます。今この機に。あ、すみません。こちらの方で補足ございますので。お聞きください。横尾議員、お願いいたします。

○横尾議員（横尾祐子） はい。補足ということで、昨年ですね、市長選ということで、城戸市長が誕生されました。その時に、子育てということで、ふれあいホールの方で、若いお母さんがたを招いて、お話を聞いたんですね。そしたらやはり、○○さんのように、市外県外から来たお母さんが、遊園地で子供の遊ぶ遊具がないんじゃないかと、本当におんなじことを仰ってました。それじゃ子供がね、みんなと一緒に遊べないって言いましたら、けど、その時は城戸候補だったんですが、皆さんが喜ぶような形で、子供たちが遊べる場をそういうふうにしていきたいって仰ってましたので、またこの質問をまた議会の方でまた反映させて、実現させて、議員とともにしたいと思っておりますので、ありがとうございました。

○司会（渡部道宏） それでは○○さんの意見が、市長の公約の中でそう申しているそうでございますので、その手腕を御覧するという感じになっております。また何かそこで違っているということがあれば、また声を出していただくと、それを我々が拾い上げるという形になろうかと思えます。はい。どうぞ。

○市民女性A 子供たちが気兼ねなく、伸び伸びと遊べる公園っていうのが理想だと思うんですけど、うち姫川原の北団地の公園の隣なんですけど、今ネットを張ってもらってるんですけど、ボールが飛んできて、結構ガラスを割ら

れてたんですよ。で、ネットも町内会の方で用意してもらってるんですけど、予算的なものがあるって、ちょっと低い状態のネットなので、それを飛び越してでもまたボールが飛んでって言われちゃったりとかっていうのがあるんですね。その辺の公園でのびのびと遊べるために、そういう柵とかそういうのを、市の方で準備してもらおうとかっていうのはできないのかなっていうのをちょっと日頃思ってた。そうすると、子供たちも、ガラスを割らなくて、伸び伸びと遊べるのかなど。結構、別に割ってもいいよと。弁償してくれれば。っていう感じで話をしてるんですけど、親御さんとしてみれば、ねえ、割って欲しくないから結構高額なものなので、割と2万ぐらいかかったんですけど、「2万かかっちゃうんだってよ、割らないようにしなさいよ」って言って、言われてて、子供たちが伸び伸びとできないっていう、そういう状態もあるので、その辺ももうちょっと整備してもらえるとありがたいかなっていうふうに思います。

○司会（渡部道宏） はい。それでは、今ほどのことについて、太田議員。

○太田議員（太田紀己代） はい。確かにそれぞれの公園ありますけれども、その公園がきちっと整備されているかという、整備されていない、或いはもう遊具が壊れていて、そのまま置いてある、そういったところもありますし、広場として、全部が全部使えるかっていうとそうでない場合もあります。私も、当初、その公園をちゃんと整備して欲しいんだっていう話もさせていただいたこともあるんですが、いろんな費用とかいろんなことで、うまくいかなかった部分がございます。でもやはり、子供を中心にしてきちっと考えなければならぬわけですので、今のご意見、ありがたくいただいて、必ず意見として、出していきたいと、そのように思います。ありがとうございます。

○司会（渡部道宏） はい。そして、今ちょっとあれなんですけど、今の総務委員長の岩崎議員なんですけど、地域の中でいろいろな活動をされているということで、それも一旦ちょっとご披露いただきたいと思います。

○岩崎議員（岩崎芳昭） 姫川原コミュニティの桜プロジェクトを代表してまず岩崎と申します。また合わせて今、あんちゃ会の皆さんがコミュニティの中で、森の遊び場プロジェクトっていう、事業取り組んで今年が3年目になります。その中で今〇〇さんおっしゃるように、自然の中で遊具を使って遊ぶっていう中で、私たちのそのコンセプトは「完璧な遊具は作らない。子供たちに遊びを少し考えてもらうような遊具」、それとお金をかけないということ、間伐材とか、それから手入れがされてない孟宗竹の林の孟宗竹をもらってきて整備するとか、そんな形です。ね今、高床山の森林公園の中に、地元の子供たちのリクエストを聞きながら、今年はですね、子供たちが、ジャングルジムを作ってくれと。それからもう一つはそのなんていうワイヤーを張った、JIPラインっていうんですかね、そこら辺を作ろうっていうことの中で、子供たちと相談しながら、それもですね、お金を出せばいろんなのが買えるんですけども、自分たちで手づくりしながら、今年の11月までには完成させ、地元の子供たちだけじゃなくて、妙高市内の子供たちも含めてですね、いろんな形で使ってもらえるように、それとただ、万が一けがした場合はってことなかでは、それはですね、エリア全体が高床山森林公園の中に入ってますんで、いわゆる市の方で傷害保険に加入されてますんでその適用になる。それからかすり傷とかそういう場合は、森林公園の管理棟の人たちに、カットバンとかそういうばそこはそういうものをお願いしてきたらお願いしますねってことをお願いしながらですね、少しでも子供たちは自然の中で自由に少し工夫しながらってことで、今作っていますので、特に去年見ていたんですけどもね。ツリーテラスを2階建てで作った。ただ私も材料が足りなくて、二階に上がる階段使わなかったんですね。そうしたら子供たち見ていたら、上のところにつかまって逆上がりみたいな形で上へ登っちゃって、そしてそこで遊ぶ。そんな話だから我々の大人の発想じゃない遊び、そういうものですね、やっぱりそういう自然の中では子供たち自分でまた考えるんだなと私も、目の前で教えられましたんでこれからはですね私ら、姫川原としてはそういう取り組みをってことで、考えています。これは他の地域でもいろんな形で参考にな

るのかなと思いますので一言ちょっと紹介させていただきました。

○司会（渡部道宏） はい。どうぞ。

○市民女性B 末広町に住む〇〇と申します。私も25年前に東京からこちらに移住してきて、25年になります。今の岩崎市議の話だとそれ、高床山の話ですか。自分の家から子供たちが高床山まで行くんですか。誰が行くんですか。

○岩崎議員（岩崎芳昭）それはね。はい。行く場合は、保護者が車で送ってもらう形で。

○市民女性B 意味がないというかそれは意味があるんですけども、通常、うちから近所で遊ぶ公園のことを、かなと私は〇〇さんの質問はそういう理解をしておりました。岩崎市議の返答だと、ちょっとその温度差があるのになって感じましたが、〇〇さんいかがですか。

○市民女性A はい。私も姫川原のコミュニティの関係に入ってるので、以前から活動してるのは、私どもは参加しなきゃいけない身なんですけど、すごいいい発想だなんて思うことは思うんですよ。ただ、日頃の子供たちの活動のために、遊びのために、そこまでいけるかといったら行けないですよ。学校から帰ってきて遊ぶというときは、高床山まで行きますか。行かないですよ。あそこまで歩いて行くのに1時間ぐらいかかります。姫川原小学校があった時に遠足で、高床山まで行って、味噌汁遠足という味噌汁を作ってたという遠足があったんですけど、私もそれ何回かおつき合いをして登ったことがあります。かなりハードです。子供だけで行くっていうのは行けませんね。車で連れてってもらったりとかしなきゃいけないし。都会の人たちがキャンプにしにきて、子供たちが遊ぶよっていうにはすごく良い施設だなんていうふうには、いや、そうだなって思うのは思っただけなんですけど。

ただ、この地域の子供たちが遊ぶのに、そういうできればね。そういうのが近くにあっていいなっていうのは、すごく思います。なので、いいことをしていってほしいんですが、それがちょっと市民のためかって言ったらそうじゃないような気もしないでもないかなって思う。

そういうふうには思います。はい。

○市民女性B すいませんそしてまた〇〇です。なので、それ、そのプロジェクトはすごくすばらしい発想ですし、お子様たちのご意見も入っているので、そのプロジェクトはぜひ進めていただきつつ、地域の公園をいかに活かすか、そこに予算枠をぜひ、妙高市の予算をつぎ込んでいただけたらと存じます。私の住む末広町のそばには、2号公園と三角公園があります。で、私の息子は今年27になりまして、もうここには住んでいないのですが、小さいころは、よく野球、バッティングとかしていました。私もキャッチボールを子供としていたんですが、今はそういう親子さんとか、お子さんの姿が見当たらないです。よく聞くとなんかボールを使っちゃいけないとかちょっと小耳に挟んだんですが、これはちょっと不確かな情報なんですけれども、使うとうるさいって言われるとか。やっぱりボールがコロコロ転がって公園の外に転がってしまっただけで危ないとかで、割と控えているという声を聞いて、かわいそうだな今のお子さんたちってとちょっと感じました。昔も結構いっぱい子供がいた地域だったんですけど、そういうことも、何か子供たちが元気がなくなっちゃう。きっかけというか、ちょっとずつなんかお子さん達が体を使って遊びにくい環境になっていて。これは何とかしていただけたらなと感じております。以上です。

○司会（渡部道宏） はい。ありがとうございます。それでは、横尾議員。

○横尾議員（横尾祐子） 私の住んでいる美守でも、やはり公園が2つあるんですね。だけど、いつ見ても1人もいません。うん。それでブランコあるんですけども、本当ブランコの揺れる音もしませんし、砂場も砂がなくなっています。本当は、そうですね、昔思うと、ちょっと遊具でお亡くなりになる子供さんもいたということで、そういう心配な遊具がどんどん減っていったことが原因だと思っただけなんですけど、さっきも言われたように、やはり子供の遊ぶ場としては、そういう子供が遊ぶ遊具もあって、そこにまた子供がいればまた子供も寄ってくると

思うので、こういった意見をまた反映させていきたいと思います。ありがとうございました

○司会（渡部道宏） はい。ありがとうございました。はい。これ〇〇さん。

○市民女性A すいません。遊具の関係じゃないんですけど、子供も特に中学生とか高校生とか、部活動をする上で、お母さんたちの送り迎えが必須なんです。で、私は横浜育ちで、横浜で部活をやったりとか、大会に出たりとかするとき、親についてきてもらったことは一切なくて、それっていうのも、交通機関が結構徹底していて、バスを使ったり、電車使ったりして移動が簡単にできたっていうのがあるんですね。だけどこちらはバスもそんなに出てないですし、間隔もそんなにないので、子供たちバス使っていくっていうことは考えられないと。その辺がちょっとお母さんたちに負担があるなど私もすごい負担に感じていて、なんで親が行かなきゃいけないんだ。子供自分のことなんだから自分で行けるような環境であって欲しいなっていうふうなのを常々思っていました。で、自分が1人で子供が1人で、多分、電車乗ったりバス乗ったりってのが、多分お母さんたちは不安っていうのもあるんだと思うんですけど、そういうこともできるようになってもらわないと、そういう経験っていうのは、こちらの地域は少なく、いざ大人になって都会に大学で行きましたとか、そういうときに、電車の使い方とか、マナーとかそういうのがあまりよくわかってないんじゃないかなっていうそういう不安もあるので、ぜひね、子供たちだけでも、バスに乗って、部活に行けるとか、そういう環境が、整ったらいいなあっていうのをちょっと感じております。

○司会（渡部道宏） それが今の関係に。太田さん、お願いします。

○太田議員（太田紀己代） はい。今ほどのご意見、確かにその部活のことに、一部分補助はあって、一部分の方々が行けるような環境はないわけじゃないんですけども、しかしながら、やはり、親御さんへの負担感っていうのはものすごくあるということは私も聞いております。で、委員会の中でも、議論した部分でもあります。それで妙高市として、ある程度支援というか援助というかそういった部分も含めて、もうちょっと進めたらどうかっていうところまではちょっといったんですが、なかなかその次に行けてない部分もございます。確かに今、良いご意見いただきましたので、もう何から何までですが、しっかりと持って行って、提案・発言して参りたいと思います。

○司会（渡部道宏） よろしいでしょうか。ちょうど2番目のテーマにもちょうど絡んでいるので。はい。両方兼ねたという感じでありがとうございました。他にございませんでしょうか。はい。〇〇さんどうぞ。

○市民女性B 糸魚川市では、この4月からお母さんたちが出産できなくなりました。上越まで行かなければならなくなりました。で、妙高市はもう数年前からですよ。何年前から、5年ぐらい、私は子供が1歳11ヶ月でこちらに移住して、25年経つので、出産は東京でして、こちらに移住したのですが、その人口減で移住、IターンUターンや、都会からの移住する人々を募集するのであれば、やっぱり妙高市で、出産ができるということ、なかなか市議会だけでは難しい。県政も関わってくる内容だとは思いますが、市から声を上げて、ぜひ妙高市で出産できる医療体制をとっているんですがそこはどうでしょうか。質問よろしく申し上げます。

○司会（渡部道宏） はい。それでは、太田議員。

○太田議員（太田紀己代） はい。それに関しては私ももうずっと、ずっと思っていて、一生懸命質問させてもらいながら、市、市長、或いは担当課の方々にも、どんどんどんどん話をしてるんですが、まだまだ進められてはおりません。本当に〇〇さんが、強く思っていることは、私も深く深く感じてます。

ですから、それをやらなきゃいけないんですが、まず医師が、本当に減ってしまって、特に産婦人科の医師ですね、2人いないと、出産、そういうことができないという形で、なおかつ病院ですと、夜間対応がありますので、もうちょっと、集めたいんですね、そこは市長ともども、もうとにかく県、それから国へ、そして今、また一生懸命呼び込んで、研修医制度をもっと活用して、医師を、どんどん新潟県に入ってもらおうようにしよう。そして、この医療体制をやろうといった話は進んでおりますが、まだ結果はまだまだ、もうちょっと時間かかるかもしれません

が、これも本当に安心して出産できる場っていうのは大切です。糸魚川本当に今住んでらっしゃる方は必死の状況です。看護職も自分がその場所で出産できないということで、ものすごく疲弊してるというところまで聞いております。まだ妙高市は少し近いんですけどもね。それでも市にはないわけですよ。ですから、本当に力を込めて、それは、市だけじゃなく、議員だけじゃなくて、市民の皆さんとともに、やっぱりこの地域をきちっと医療体制を充実させるためにやっていかなきゃならないことかなというふうに思い、ありがとうございます。

○市民女性B ぜひよろしくをお願いします。

○司会（渡部道宏） よろしいでしょうか。他にございませんか。

○市民男性B はい。ほかの県の話なんですけれども。長野県で、公園を廃止する廃止しないってありましたよね。子供の遊ぶ声がうるさいと。だから私ちょっときつい言い方しますが、子供がいる孫がいるうちは何も言わないんだけど、子供や孫がいなくなると、うるさいとかなんか言ってね。そういう人もたまにいますよね。ちょっと厳しい言葉かもしれませんが、それと、私も20代から地区の公民館とかそういうことで、関わってきたんですけども、中学校を子供が卒業すると、公民館活動とかその地区の活動に出てこなくなるんですよ。ほんで結局このままで、卒業したら私としては地区のそういう役員をやってもらって、その姿を子供に見せて、その子供が大きくなったらまた地区の活動をやるようにすればいいんですよ。妙高高原のある消防分団の話なんですけども、親が、子供が消防団に入ると、了承したそうです。そしたら、親が、消防団に入るなど断ってきたそうです。ね。それだったら私も消防団の地区の分団長までやったんですけども。ちょっとこれいいですけどもね。だったら、あなたのね、うちから火事が出たら消しませんよと。極論なっちゃうんですかねそれまではね。なっちゃいますけどもね。ただ、今皆さん上越の消防がありますからね。そういうことはないですけども、とにかくこれからそういう、市民から市の方へ、この公園廃止してくれっていう意見あったら、市議会としてはどういう対応をするんでしょうか。

○司会（渡部道宏） はい。今ほどの意見につきまして。

○霜鳥議員（霜鳥榮之） はい、霜鳥です。今、それぞれにご意見出していただいて私も聞いていましたけども。これがそもそも地域のコミュニティが成り立っているかどうかなんです。公園欲しい人。今言われたように、子供さんがいるうち、じゃあ、その町内は果たしてどうなんだと。あれやってこれやってって言った時に、公園の管理は町内でやっているけども、役員さんどうなのという形なんです。そうそういう形があるものだから、そこでもってコミュニティ組織を綿密にしていく関係があるかな。そうすると、公園の、子供の、それだけじゃないんですけども、その町内地域。こういうことでもって、皆が何かやろうといったときに、みんなでも協力体制ができていけば、そこはお互いにわかり合えてやっていくことができるし、行政の方では、公園にこういう設備云々っていうのやってくれっていうと、これ地域から出てくれば答えてくれるけども、それに対しての管理は地元町内でやっていく、ここところは、それぞれに相談しながらやっていかないと、個人の意見を通せばそれでいいのかっていう問題でもないっていう形がありますので、地域コミュニティって言った時にはそういうことも絡んでくるんですけども、やっぱりお互いに認識してかなきゃいけないのかなっていうふうに思っております。

それからついでなので、先ほどの医師の問題についても一言触れさせてください。妙高市でもってお産ができない。今糸魚川もできなくなりましたけども、これについて市はどうなんですかって言われても、これは市とか県とかだけでは今まかないきれないっていう状況にあります。何かっていうと、医師が足りないんです。その医師が足りないって言った時にじゃあこの責任はどこなよっていうと、国なんですよ。国の政治の中でちゃんと医師を育てるっていう、こういう教育をやっていない。ぎりぎりでもって医師が育っても、そのお医者さんはどこへっていうと、こういう僻地じゃなくて、便利なところ、働きやすいところ、或いは、勉強できる場所、そういうところにお勤めになってしまうので、なかなか地方にはお医者さんがこないよということで、お医者さんをまず育てなきゃ

駄目だと。今更何をもって形あるけども、今更でもやらなかったら増えていかないっていう形なんですね。ほとんどの方、知らないでいますけども、このお医者さんを地元で育てるがためにということでもって、おそらく7、8年前だったと思うんですけども、皆さんに呼びかけしてお知らせしたこともあります。だけどそれはそんな単純なものじゃないんですね。そういう形の中で、地元でもって、お医者さんを育てるためにっていうことで、今他ではやってないんですけども、妙高市では、お医者さんを育てるために、勉強する人に、月30万円の奨学金を出して、お医者さんになってくださいと、こっちから願いますってよりも、大学に行っている皆さんに呼びかけているんですけどね。そうやってお医者さんを増やしていかないと地方までまわってこないよと。そういうことをやることによって、奨学金の関係があるんで、そっからもらった場合には、お医者さんになって、地元でもって、一定期間は、働いてもらうっていう、こういう形を今出しているんですね、まだまだ先の話になります。けども、先の話になるからじゃあ今どうなのって言った時に、今でもやらなかったらいつまで経ったってないよっていうこういう形になるんでね。だから、一步一步そういうことを進めているっていうのが今の現状であって、議会の中でも真剣に議論はしているけども、ここだけでは成り立たないという状況であるっていうことは、お互いに認識しなきゃいけないことなのかな。そういうことに関しては、責任追及じゃなくてみんなでもってそうやっていかなきゃいけない。お宅の息子さん、お子さんお医者さんになってもらえませんか、これもそんな単純じゃないですよ。だからそういうものも視野に入れていかなきゃいけないのかなっていう辺りだと思います。これ誰の責任でどうのこうのっていうことじゃなくて、みんなでもって努力していかなきゃ駄目だと。いうことになると思うんだよね。責任追及で何とかするっていう問題ではないっていうことをお互いに認識しながら頑張っていかなきゃいけないなど。私たちだって当然その責任を感じながら、対応しなきゃいけないということだと思います。すいませんちょっと長くなりました。

○司会（渡部道宏） はい。〇〇さんの。はい。横尾議員。

○横尾議員（横尾祐子） はい。今の霜鳥議員がおっしゃったように、今妙高市では、昨年4年ぐらい前から医師を目指して、勉強して、医師免許を取って、地元で開業するっていう方が、今1名おられます。その方は、一生懸命まだ、頑張って勉強して下さっておりますが、その方がどのような開業医師になるのかわかりませんが、そういう志を持って頑張ってる人が1人っているってことをお伝えいたします。

○司会（渡部道宏） すいません。質問があった時にそれに関連するときに回答していただきたいと思います。今〇〇さんからのご質問についての回答をできればお願いしたいと思うんですが。

○岩崎議員（岩崎芳昭） 〇〇さんの消防団の関係ですね。

○市民男性A じゃなくて、とにかく市の公園を廃止したいという声があったらどうするのかということです。

○岩崎議員（岩崎芳昭） 公園だとうちの所管じゃなくて。

○司会（渡部道宏） 〇〇さん、ありがとうございます。当然、妙高市としては、その個人の声をどの程度とらえるかということになるかと思うんですけども。本当に、ものすごく大声を出して、隣近所にまで迷惑をかけるような騒ぎ方をする拡声器持ってきて騒ぐような子がいるとなれば、当然それは、その公園自体のあり方についてもめるでしょうけども、基本的には多分、私が市長じゃないので言えないんですけど、今ある公園については子供たちを育てるっていうことで、自然淘汰されて残っている公園ですので、公園をこれ以上減らすということはないというふうには考えております。また我々としても、そんなただ1個人の意見だけで、子供たちの遊び場を減らすようなことにはさせたくないということで、当然反対の声を上げていくつもりではあります。以上でございます。よろしいでしょうか。

あとその他、何か声、ありますでしょうか。そうですね。

もうここまで来れば、今地域とか、コミュニティと子育て、交通公共交通、その他のテーマということで3つ構えておりますが、もう結構ですはいどうぞ。

○市民女性C ○〇と申します。今日はそうですね。なかなか市議会の議員さんとお会いする機会もなかったので、議会もいけませんし、今日はちょっとどんな方がいらっしゃるのか、実際こういう場がねどんなことが話し合われているのか聞きたくて来たんですけれども。今日はですね私、一つお聞きしたいことができたんですけれども、こういった場ではタブーな話だと思うんですけれども、ワクチンとマスクのことです。

テレビだけをね見ている方達にご存知ない話だと思うんですけれども、今日本でも世界中でもワクチンを接種した方たちが亡くなっている事例ってご存知かと思うんですけれども、今、女性セブンとか、そういった雑誌、文春とか取り上げるようになって、知るようになった方たちも多いんですけれども、私ですね、ワクチンの接種が始まったころに、このワクチンが治験であるということを知りまして、治験っていうのは人体実験ってことですよ。実際そのワクチンが開発された時にも、実際の人体実験の検証が行われないうちに早急な形で認可されたっていうのを聞いてまして、私はそれを市がちゃんと知った上で、ああいった、うちにもワクチン接種の推奨の用紙が来ましたけれども、電話したんですよ、そしたら、人体実験だってこと知っていますかって聞いたら、健康保険課かな、知っていますって言ってました。うん。もちろんですよ。ワクチンを受けるときに私受けてないですけれども、ワクチンを受けるときに、お医者様が、ご本人に、これは治験なんですってことをきちんと話すること伝えることが、決められていますから、本当はすべての受けた人たちが治験であることを知った上で、その危険性も後遺症が出ることもわかった上で受けるっていうことが前提です。だからこそ、自己責任、推奨でありながら受けた人にもすべてを知った上で、受けたっていう責任があるっていう前提に基づいているんですけれども。実際そういった詳しい話がされてるかどうか私は受けてないのでわかりません。マスクについてもですね、私ちょっとこの卒業式と入学式の時期にすごく心配していたんですけれども、上越タイムスとかそういったものを見ると、学校でも歌っている時でも、入学式の時でも、マスクを外している学校があったり、一方、マスクをつけている学校もあったり、もう大人たちがなんでマスクをねもう世間その辺でバタバタと人が死んでいる状態ではないじゃないですか。大人たちが、奥さん方がランチをしているのを見れば、マスク外してぺらぺらしゃべっていて、廊下歩くときに、一言もしゃべらないのにマスクを一生懸命つけている。子供たちは夏の暑い間も運動している間もマスクを義務のように付けられて、そういった状況をずっと見てきて、大人が本当にちゃんとですね、危険性を自分で認識して、子供たちはこれ以上マスクをつけて、運動したりしたら絶対危険ですし、5月から、2類から5類になるっていう状況になってはいますけれども、今でさえですよ。マスクは私はそんな必要ないと思うんですよ。なのに、人のアンケートを取ると、人の目が気になるからつけてるっていう方が大半なんです。大人がそういったことをね続けている限り、たとえ2類から5類になったとしても、人が周りをつけていけば、大人はみんなつけるようになるし、その大人が、そういったことを続けていけば、子供たちもつけざるをえなくてずっとつけることになるんですよ。で、私が思うには今教育現場、今、妙高市の中で、小学校とか中学校とか市立の学校でね、子供たちのマスクがどんな状況なのか知らないです。うん。登下校も、時間があってないから見てないんですけど、多分つけていると思うんですよ。夏場もしこんな状態で、自己判断でできることなのにほぼ100%の人がマスクをつけてワクチンを接種しているっていう中で、子供たちが、一番犠牲になるのは子供たちなんですよ。うん。ワクチンで接種して、その日のうちとか翌日に亡くなっている方が、今どのぐらいいるかご存知ですよ。そういう情報取っていかね、2000人いらっちゃって重篤な状態の方が2600人。2600人ですね。それで、去年、一昨年に比べ超過死亡が全国で20万人いるって言われています。厚労省に上がっている情報も、自分がワクチン接種でそういった状態になっているかっていうことも、自覚がなくて、具合が悪いって言っている人もいますし、私の近所にワクチン接種として、夕方

に救急車で運ばれた人もいます。うん。その方に奥さんに聞いたら、いや状態が良くなったら2回目を受けようと思っているんだけどねっていうから私は、1回に向けてそんな状態になったんだから2回目受けるのは、自粛したほうがいいんじゃないですか、といいましたけど、もう本当にもう世間の情報をテレビしか見てない人はそういうふうに信じて、そうなってっちゃうんですよね。だから、私一番心配なのは、大人はまだ自主判断ができるけども子供たちは情報がないので、大人がきちんと判断して、自分で危険性を熟知して市ですよ。推奨する立場で、もうこれワクチンを受けた人は受けてもいい、いいと思うんですよ。ただ、そういう選択の自由はありますから。ただ、送ってしまうと、接種券を送ってしまうと、もうそれを受けるもんだと思って受ける人がいる。でも私、送るならきちんと副作用があることをきちんと併記したもの。国から、これ印刷して渡せていったものじゃなくて市は市の判断を市民を守るっていう立場で、そういった情報も併記して送るなら送ってくださいって私その方に言いました。それ検討しますって言ってその後、そのあとも子供たち、4歳から11歳までの子供たちも、接種券を送られるような状態になったって聞いたので、全然意見が通ってないんだなと思いました。だから私は、国をどうしようとかって言うても無理なので、小さい地域、妙高市でもし心ある議員さん。うん。行政の方々も含めてですよ。方がいらっしゃるんだったら、妙高市なりのやり方があってもいいんじゃないかなと思うんですよ。今子供たちが、新学期始まって、また1年生から、このままいったらねまた3年間マスクをし続けて友達顔はわからないままに、3年間を終えた子供たちもいたわけですよこの3年間。私はその子供たちに対して本当に申し訳ない、少しでも外せる時があったら外せるように、どうしてしてこなかったかなって。それは教育委員会のね仕事なのか、行政の仕事なのか議会の仕事なのかわからないんですけど、そういった意味で、議員の方たちの、私今日資料持ってきましたけど、全国のお医者様で危険性を訴えている方達が、全国の市長に向けて危険性を訴える資料を送ったんですって。いやそれがね、市でどういった対応をされたかわからないんですけど、議員の方たちも含めてですね、そのワクチンとマスクについて、子供たちの健康を考えて、方針をこれからねどういうふうに進めていくかということを具体的に考えていただけたらって思っています。

○司会（渡部道宏） はい。ありがとうございます。地域についてはどちらの地域。

○市民女性C 柳井田です。

○司会（渡部道宏） 回答は、太田委員。

○太田議員（太田紀己代） はい。どうもありがとうございます。確かにワクチンっていうのは、非常に、どう言ったらいいでしょうね、不確かな部分もあることは、あるというふうに私も感じております。ただ、実際はそのワクチンを打つ状況、或いはその打てる状況っていうのを、その国レベルで判断をしてきて、とりあえずはその全体の中でどうする、どういうふうにするかということを考えて、今の状況があるんだと思いますが、やはり一人一人の命です。これはとっても大事です。そういう意味からすれば、妙高市としてきちっと安心と安全性を確認した上で、出すと言ったところはちゃんと追求しなければならない部分ではあるというふうに思います。

そしてあと、マスクのことですが、私は今マスクしておりますが、一応ですね、学校、小学校中学校に関しては、4月1日以降、マスクを外していいと、いうふうな話になってまして、確かにされてるお子さんもおられるかもしれませんが、ほとんどのお子さん外してきてると、こういうふうな情報が入ってきております。マスクについても、ただ、これは強制ができない部分ですから、実際は今のその感染状況がどうなのか、そういった情報をきちっと市民の皆様にお伝えしていく、そういうことが必要なんだろうなというふうに思います。

○司会（渡部道宏） はい。〇〇さんありがとうございます。内容的にはどんなものでしょうかね。〇〇さんのご質問いただいた内容については子育てなので決してテーマから外れるわけないので。はい。大丈夫だと思いますが。

○市民女性C 情報として情報をきちんと伝えるってことが大事なので、すべてを国の方針だからって言ってそのまま

流すのではなくて、あの、自分の身にも起きることですし、自分の家族の健康にも関わることで、その辺もやっぱり議員の方たちも勉強会開いたりとかですね、実際にその市民の方たちがワクチン接種した後に被害を受けてる人がいないのかどうかとか、そういった窓口として、どうしてるのかとかそういったことをきちんと命を守る意味で、きちんとワクチンとマスク、特に子供たちに対してはきちんと向き合って、市民に対しても情報発信をですね、行政がしないんだったら、議会の方で、議員の方たちが情報発信するとかそういったこともできると思いますので、行政のいう通りという形ではなくて、議員の立場として、市民のほうから寄り添う形で、勉強されて情報発信、情報伝達していただくようお願いしたいと思います。

○司会（渡部道宏） 要望ということで承っております。はい。それでは時間も大分過ぎましたので2番目の公共交通について移らせていただきます。

3. 意見交換会「公共交通について」

○司会（渡部道宏） 公共交通についてご意見ご質問ある方、どうぞ。

○市民女性A はい。先ほど子供の件でも言ったんですけども、これから高齢者が、免許証返納を迫られた時に、なかなか免許証返納できないっていう状態に今、妙高市にあると思うんですけど、それっていうのも、返納してしまうと、足がなくなってしまうと。買い物に行きたくても、なかなか行けない。で、家族に送ってもらわないと、いけないっていう状況だからなかなか返納できないよっていう、そういう状況だと思うんですね。多分皆さんも考えていらっしゃると思うんですけど、やっぱり年寄りって、我々が考えて、この辺からね、原信まで、近いと思うんですけど、歩いて行けるだろうって思うんですけど、年寄りからしたらかなり遠く感じちゃうんですね。途中で休憩する場所があればいいんですけど、座って休憩する場所もないし、横断歩道も、あっち行かないといけないしとか、原信のところも、原信とかあとはアオキができたじゃないですか。アオキのところも、どうやって入ったらいいって歩いてどうやって入ったらいいっていう、そういう感じなので、歩いて、買い物に行けるっていう状態であったとしても年寄りにとってはちょっと苦かな。年寄りがどういうふうに買い物に行くかなっていうのを考えた時にやっぱりバスとかそういうのをもうちょっと、使いやすいような、なんですかね、考えていただきたいなど。前に私、東京に居たときに、手を挙げると止まってくれるバスがあったんですよ。人口のね、多い少ないもあるものであれなんですけど、バスがいつもグルグル回っていて、手を挙げると止まってくれて、どこどこに止めてくださいっていう、ピンポンのボタンを押すと、その近くになって押すと止めてくれる、ていうバスがあったんですね。そういうのがあったら便利だっていうふうに思うので、ちょっとなかなか難しいとは思いますが、そういったような、バスがあったらいいなど。で、バスだけでなく、ある地域では、ハイエースのような車、今ね、妙高市もハイエースの車がバスというか、回っていると思うんですけど、高齢者専用の200円で、いずれも電話くれば迎えに来ますよ、送りますよ。ていうのをやってるところがあるんで、それは民間の人たちのボランティアでやっているんですけど、そういうのもあったらいいなっていうふうに思っております。はい。以上です。

○司会（渡部道宏） はい。ではこの件について。霜鳥さん。霜鳥議員お願いします。はいどうぞ。

○霜鳥議員（霜鳥榮之） わかりました。バスっていうのは、いろんな形がありましてね。確かに都会と山地では違う。買い物じゃどうすんだ。それぞれ皆さん住んでる場所によって基準が決まっているんですよ。例えばなんですけども、新井の南部地域。ここにセブンイレブンがすぐそこにありますけども、そこから奥には店が一軒もない。年寄りしょどうやって買い物行くんだっていう、同じなんですよね。ここはまだ近いじゃねえかっていう、これ遠いか近いかってそのレベルの話じゃないよと。今、コミュニティバスそのものも、今みずほつとがこれから始めるんだろうというふうに思うんですけども。通常の運行と、それとは別枠でもって買い物バスを仕立てようと。これ

は私も早くからこう言ってたんだけどね。通常バスと通常運行とそれ以外の時間体の中に、買い物バスっていうのもあっていいし、どっか遊びくっっていうのはあっていいし、それをもって言うんだけど、具体的にはこれからやるみたいです。町内では町中を巡回するバス。チョイソコみょうこうだったかな。そういうのがあったりするんですけども、それがなかなか知られてないっていう状況じゃないのかなと。もしそういうのがあって、ここでもこうだって言ったらじゃ、その範囲をここまで広げてよとそういうことを言えば、可能なわけですよ。だから、知名度がないっていうことを今感じましたんで、それはそれなりの対応をしてくれなきゃいけないなど。これも、ただ、何て言うかな、一路線っていうかね、だけじゃなくて、今のところのどこやってんのは、町内でもって外回り内回りみたいな形でやってた分、試行的にやってた部分ですけども、その範囲をちょっと広げるっていうことも大いに必要だなということなんで、これも先ほど言いましたように、地域コミュニティの中で大いに声を出していただきたいというふうに思うんですね。これ1人2人の声だからっていうことだって地域にはそう、それなりの人たちいろいろおられるんで。そういう人達の声も聞きながらまとめて市に要望するということになれば、それは十分可能な話だと私は思ってます。

○司会（渡部道宏） はい。それでは、今の引き続きとりあえず〇〇さんからよろしいですか。

○市民女性A すいません。今のご意見に関してなんですけど、多分皆さんもね、妙高市のかたたちで、すごい、人がいいっていうか、やさしいから、自分の意見を言っちゃいけないんじゃないかって思ってる人が多くて、私はそうじゃなくて思ってることバンバン言っちゃう方なので、こういうふうに意見を言うんですけど、やっぱ多分こういうふうに思ってるんだけど、言ったってどうにもならないよ。だから言うだけ損だよって思ってるか結構いらっしゃるんですね。私は、私は言っちゃうよっていうふうに話をしてるんだけど、やはり〇〇さんだけがそういうふうに言えるんで私は言えないわっていう人が、結構いらっしゃるんですね。その意見を言えない何かが多分あるんだと思うんですよ。もうちょっと意見をどんどんどんどん聞けるような、そういう状態があれば、ちょっとでも行ってみようかしらって思えるんじゃないかなっていうふうに感じました。はい。

○司会（渡部道宏） はい。今ほどの意見について。

○市民女性B そして補足なんですけど、よろしいでしょうか。

○司会（渡部道宏） はい。今の意見に対しての補足ということでよろしいですか。

○市民女性B はい。

○司会（渡部道宏） 〇〇さん。

○市民女性B はい。やっぱり、こういう意見交換会、初めて参加させていただいたんですが、市議会議会報告会、意見交換会という名目だったので、いきなり意見を求められるっていう状態が実は私とてもびっくりしていて。言にくいですよ、やっぱりそこを、そこをあえて勇気を出して、一步踏み出していっている次第なんですけど、そうだな、さっき市議さんとはということで、スライド、あと、はい、ムービー見せていただきました。そこにまず市民がてっぺん、三角形がありまして市民がてっぺん、そして、向かって左下に市議会、そして右下に市長の三角の交流のやりとりがあって、市民の意見を市議さんが聞き市議さんが、市長に持ってく、それで市長はそれをもとに、市民のためにこうやるっていうその三角の図を見せていただいたんですが。市民から市議さんへ意見交換の場が少し、もう少しあっていいのかなって。感じながら見てました。なので、本当にもうお忙しいと思われそうですし、いろいろご尽力していただいているかと思いますが、市政報告会とか、地域からの代表として市議さんの皆さん、立っていらっしゃると存じますので、ぜひ市政報告会を地域でやっていただいて今どんな感じなのかとか、そういう市議はこうだし、今の市議会ではこういうことやってるよと、文面でね、毎月広報で見せていただいていますけど、よりリアルに対面で、コロナも、ありましたしね、集まる機会なかなか今までこの2〜3年、ちょっと遠ざかってお

りましたが、今後はコロナのね緩和もなってきましたので、ぜひ交流をして、そういう会を開いていただけたらなと感じました。よろしくをお願いします。

○司会（渡部道宏） それでは今ほどの〇〇さんと〇〇さんの意見について。横尾議員。

○横尾議員（横尾祐子） はい。今日本当に活発な意見、何人来るんだろうかなあとか、そしてまた質問どうぞって言ってもシーンとしてるとちょっと寂しかったんですけども。女性の方々の積極的な質問、そしてまた、続けてね、いろんなことを聞かしてもらって、私たちの方が本当に今日収益を得たなと思って喜んでおります。そういう方々が、ぜひ市議を目指してやっていただきたいと思いますし、また議会報告会・意見交換会は本当は年1回じゃなくて、年2回やってた時もあるんですが、やはりコロナ禍ということで、今は1回になってしまったんですね。そういう意味でも、そう言っていただくとまた張り合いもありますし、また今年中にもまたやるような改選という選挙がありますが、また、そういった市民の声も反映させるのにもこういった直接皆さんからご意見いただくのは、本当に収益を得たと思いますし、本当にありがとうございます。

○司会（渡部道宏） はい。ちょっとお待ちください。〇〇さん、どんなものでしょうか。それでご納得いただいて。はい。

○市民女性A えっと、今〇〇さんのご意見にお応えしていただいて、意見交換会の数をふやしていただけるっていうお話なんです。市議会の方の意見交換会だけでなく、私たちが何か疑問に思ったこと、何か聞きたいことっていうのをどこにお話したらいいのかな。私も結構こうやってね、言う質なので、しょっちゅう市の方に、お話をしに行ったりとかするんですよ。昨日もちょっと教育委員会の方に相談しに行ったりとかしてるんですけど、結構意見を言った時につぶされるんですよ、そこで。いや、そんなこと言ったってね、というふうに。そういうふうになると言ったって無駄じゃない。というふうになっちゃうんですよ。じゃなくって、それでちょっと結構嫌な思いをしたことも何回かあるんですけど、市民の意見をもうちょっと、そうなんですってこう聞いて聞いたことに対して、いろんなところにその話を持ってって、そんな話に対して、こういう答えですっていうそういう流れがあればいいんだけど、その場でつぶされてしまうっていうのがあるので、そうじゃなくって、もうちょっとみんな市の方とか、市議会の方に持ってってもらって、できないかかっていう、そういう話、時間があって、いや、こうですよっていうのがあればいいんだけど。結構ね介護の件で、どこに話をしに行ったらいいかわからない、聞いたらいいかわからないっていう人が結構いらっちゃって。それっていうの私も、今回コロナの件で、うちの息子がワクチンの副反応が出ちゃって、その副反応をどこの病院で相談したらいいかわからないので、内科のリストを欲しいって言ったんですけど、いやそんなもんないよ。自分でネットで調べるしかないよねみたいな感じで言われてしまったんですけど、ネットの環境があれば、調べられるんですけど、そういうそっけない対応っていうのは、もうちょっとできないのかな、もうちょっと親身になって、答えてくれないのかなっていうのを日頃感じてるので、多分そういうのが、意見を言いづらっていう、そういう雰囲気を作っちゃってるんじゃないかなっていうふうに思います。

○司会（渡部道宏） 太田議員。

○太田議員（太田紀己代） はい。ありがとうございます。意見を、私たちは、皆さんの意見を本当にご飯のようにいただきたいんですよ。で、もうここにいる議員みんな、電話番号とか公開もしてますし、どの人でもいいです。今度電話ください。

○市民女性A 電話番号知らないです。

○太田議員（太田紀己代） そうですか。では近日中にお渡しします。はい。あとです窓口ですごく嫌な思いをされたといったところですが。例えばそのワクチンのことに関しては、実際に皆さんにもお配りしたかもしれませんけ

ど市でも持っているんです。どこに連絡をするっていう、それをちゃんと教えてさしあげなかったっていうことは非常に申し訳なかったというふうに思います。申し訳ございませんでした。

○市民女性A 県の方で、受けていますよっていうそういう紙とかみたいなのをもらったんですよ。そこに連絡しても、なんですかねその内科で見てもらって、副反応だっていうのがわかった状態で、県の方っていうのがあったから、まず内科を教えるってときにそういうリストがないと。でも、そのリストがないっていうのが何かおかしいなと思ったんですけど、リストは作って欲しいなと。他のところでは、聞けば、内科はどこどこで妙高市内は少ないから上越市に行かないと、今ないですよ、病院が。上越市内でどういう病院があるのかっていうリストぐらい作ってくださいますよって言ったんですけど。うーんっていうふうなお答えしかなくて、なので、そういうところをもうちょっと考えて欲しいかなっていうのが、はい。

○太田議員（太田紀己代） 実際そここのところのリストについては、市の方でも用意はできると私は思っています。非常に不本意な回答だったんじゃないのかなというふうに思いますし、その点については、私、出かけて行って確認をさせていただきたいなというふうに思います。

○司会（渡部道宏） はい。○○さん。

○市民女性B あと今この席で市役所の方って、ご参加、えっとですね、これは実際私が体験したわけではないのですが、私の友達がある内容を市に相談しようと思って。ある市議さん、でも数年前なので、例えばの話で聞いていただければ。その市議さんと一緒に市役所に相談に行ったら、訝しげな顔をされた。市議さんが帰ってそのあとに市議さんを連れて市役所に相談しに来ないでください。とはっきり言われたそうなんです。なので、市役所の方、役所の方も、市民の声をちゃんと一旦受け入れ、そして市議会にそういう意見があったということを、市政に上げていただけたらいいのになと私その時感じたので、今ここで一応こういう話になったので、お伝えさせていただきます。以上です。

○司会（渡部道宏） はい。ありがとうございます。今ほどいただいた話について、皆様方からの市役所の対応についてということでございましたので、市役所職員が自分がその立場になった時の対応ということをしていただけるよう、我々の方から市の方には申し入れさせていただきます。それでは、はい、どうぞ。

○市民男性A 妙高高原地域の○○です。今日で3日連続で意見交換会に出ましたが、3か所のみんな個性が出ていると思います。その中で私は一番、皆さんみんな違うんですね、抱えてる問題が。その中でそれはいいんですが私は公共交通についてのことについて、今皆さん話し合っただけで私たちだっていつどうなるか明日どうなるかもわかんなくて、買い物のこと、いわゆる私の意見からすると、免許を返納した時に、いわゆる今民間で食材配達してるから、市でそういう時に少しぐらい、もう75歳以上で免許を返納した時に、たとえ1割でも2割でも、いわゆる市からの援助があればいいなと思います。移動販売去年やっていただけまだ今年やっていないような気がすんですよ。だからそれは別に、市の責任でも何でもなし、民間ですから、何も言えません。それで私が一番今、市の対応が悪いと言われましたね。あれね市報のね、11月か12月の時に、市長への頼りっていう欄があるんですよ。私そこへ去年出しました。合併する前に、当時町長への便りを出して、内容が内容だけに、総務課はすぐ動きました。この間去年、私、市長の便りのところに加えて、10日たっても返事が来なかったから私行きました総務課へ。その時に私言ったのは、○○ですが、文書届いてますかって言ったら、届いてます。と。結論出せる人を出してくれと。そしたら、今、課長は仕事であと1時間後になったら会えますから、だったら1時間後に行きますからって言って、いわゆる動かなきゃ駄目なんですよ。受け身じゃ駄目なんですよ。だから、私も区の役員やって、市の担当と話した時にも、やっぱりその時思ったのは、受け身じゃ駄目で、今みたいな意見をはっきり言わなきゃ駄目なんです。だから総務課長と対面した時に私言いました。私の意見が通らないならば、議員を連れてこなきゃいけない

のかと。議員も頭数が欲しいのか、上位当選者がいいのか課長選んでくれって言ったんです。そしたら、いやそんなことありません。だから、返事はここまではできるけど、こっから先のことについては、その先なんだということなんで言えなかったのかということ自分の考えちゃんと持たなきゃ駄目なんです。だから私は、意見交換会、今年は3回出ました。3回あれば3回出るでしょみんな違うんですよ。だからそういうときに自分の考えをしっかりと、いい意味でも、ちゃんと日本国民の義務、ちゃんと税金だけは払ってから私意見を言おうと思ってます。だからそういうふうに皆さん、みんないい意味でね。興味を持ってくれたらもう議会も傍聴に行くことが一番です。私と〇〇さんとで約9割以上の出席率です。委員会から事前会議からみんな出たほうがいいです。そうすると、いい意味で、お互いに勉強、議員さんも勉強、私達も勉強、有権者としての。それだけ私皆さんに言いたいです。1回でも多く皆議会傍聴に来てください。だからその時になったら、今度意見交換会のときには、もっと細かいことに対して、皆さんにみんないえるんですよ。今は議員さん今15人しかいなくて5人で3ヶ所やったわけでちょうど15人ちょうどなんです。だから、いい意味でも悪い意味でも、来てどういうふうにしてるか、〇〇さんは寝てる人がいるかないかとか言いました。それもその一つの目的ですから、いいんじゃないですか。あとコミュニティバスのことについて、私ちょっと横道逸れるかもしれないけれど、運転手のマナーが悪いんですよ。これがいわゆる人を乗せている人の、運転かど。だからそういうこともこういうところで言わなきゃ駄目なんです。自分の思っていること。陰でこそそそこと言わないでも、バーンといえ、この人たちみんな聞いているんですから。聞いて記事にするのは、報道関係なんです。以上です。

○司会（渡部道宏） はい。ありがとうございます。今〇〇さんからいただいた意見については、我々、確かに聞いておりましたので、そのまま、担当課の方もしくは担当者の方にはつけたいと思っておりますので、あともう時間になりましたので最後にお1人で、じゃ、〇〇さん。

○市民男性B 先ほど言いましたけど私今年で70になるので、7月の臨時議会で一応、傍聴とかこういう報告会、一応卒業しようと思います。それで最後にですねちょっと一言お願いします。まず、いろいろご意見出たんですが、私今ここでしゃべっていると、議員の顔はわかるんですけど皆さんの顔がわからないってことで、会場を今度はコの字にさせていただきたいと。100人200人も来ればこれでいいですけど、発言してる人の顔が見えないんですよ。そして昨日も言ったんですけど、議事録見れば、会議の内容わかって言ったんですけど、同じね、例えば馬鹿野郎といったって、愛情のある馬鹿もあるし、それが、本場のいかないとわからないわけですよ。そういうことでまず希望ですけども、会場はコの字にして、早めにしてもらいたいと。ここだったら、議員さんこっちに並んで、司会で15、20人いても、良いと思いますよ。それ以上来たら無理ですけど。

それと、10月に城戸市長が、なりました。ほんで、先ほども言いました9月に、失礼7月に一応最後の立ち会い人をやる予定です。それで、皆さん立候補するかわかりませんが、新しい18名から16名になる議員さんが出ます。そのときにですね、一応当選回数、年齢、男女等、なく、誰でも議長に立候補できる雰囲気を作っていただきたいと思うんですよ。一応私の聞いた噂では、会派内で調整してるとか。そういう話も聞きます。で、同じ会派から議長と副議長は出せないだとかね、何かしがらみがあるらしいですけど、やりたい人がやればいいじゃないですか。私も先ほど言いましたけど、消防団に入って消防分団をやりました。そして今、地区の区長もやっています。そして、もう一つ、今年からまた神社の総代会もやっています。そして民生委員も誰もやらないからやっています。ね。だから、やるんなら社長になれと。議員になったら、1期でも議長をやって、市議会の顔になっていただきたいということです。これはですね一応、今のことじゃなくて、10年後20年後の事を考えて、やっていただきたいと思っています。その頃には我々もういませんけども、いてもね、役に立ちません、いるだけですから、何ていうんですかね、とにかく今じゃないんです。当選するための公約は要りません。1期4年の中で何をやるかですよ。ほん

でやらなかったらなんて言うんですかね、とにかく今のことを考えなくて、次のこと考えて、次世代のこと。ほんで私一番困っているの、どこでもいいんですけど。私の後、区長やる人いないんですよ。それで、通常私も2期4年やったんでやめる予定だったんですけども。どうしてももう2年ということで、やっています。ほんで誰か、さっきも言いましたけど、お前がやるから誰もやらないんだわね。と。卵が先かにわとりが先かなんですよ。誰もやらないから、俺がやってんのか、俺がやるのか、やっているから誰もやらないのかと。それとあともう一つに、長野県の下條村でしたっけね。定員割れの議員が出ました。妙高市議会は、私にもね、誰かお前そんなこと言うんだったら立候補しろと言うけど、そういう元気がありませんもうこの歳で。もうこれからね、議会の、いろいろな勉強するには元気がありません。これからは若い人、ちょっとこれから日本はちょっとしかないですけども。とにかく無投票にならないで、若い人に出ていただき、横尾さんはじめ太田さんもあと、ね、いますけども、女性の議長誕生を願って、私の最後のお願いにしています。ありがとうございました。

○司会（渡部道宏） 議員に喝を入れていただいたり、いろいろありがとうございました。では最後、〇〇さんよろしいですか。ちょっと時間過ぎてしまったので。はい。ではまたあと後日、直接お聞かせいただくということで。はい。それでは議会報の方に連絡先、議員の連絡先書いてあるということでございますので、はい。議会報全部見ていただければ書いてあるということで、私も今それちょっと初めて知ったんですけど、連絡していただくと、どの議員かということで、ということでございます。

4. 閉会あいさつ、閉会

○司会（渡部道宏） 活発に意見交換をいただきましたが、予定していた時間も経過しておりますので、本日の議報告会・意見交換会はここで閉じさせていただきたいと思っております。先ほど申しましたが、もしご意見がありましたら、その議員のをとろめがけていっていただいて、意見を直接、〇〇さんからありましたが、また、〇〇さんからありましたが、声を出していくということが、自分の希望の形になっていくということでございますので、そこら辺を踏まえて、意見の方お待ち申し上げます。以上をもちまして、議会報告会、意見交換会を閉会いたします。本日は大変ありがとうございました。

○議員一同 ありがとうございました。

○司会（渡部道宏） はい。お帰りの際は事故等に十分注意してお帰りください。なお、お手数ですが、アンケートへのご協力をお願いいたします。記入が完了しました用紙はそのまま机の上にお帰りください。

閉会 午後8時44分